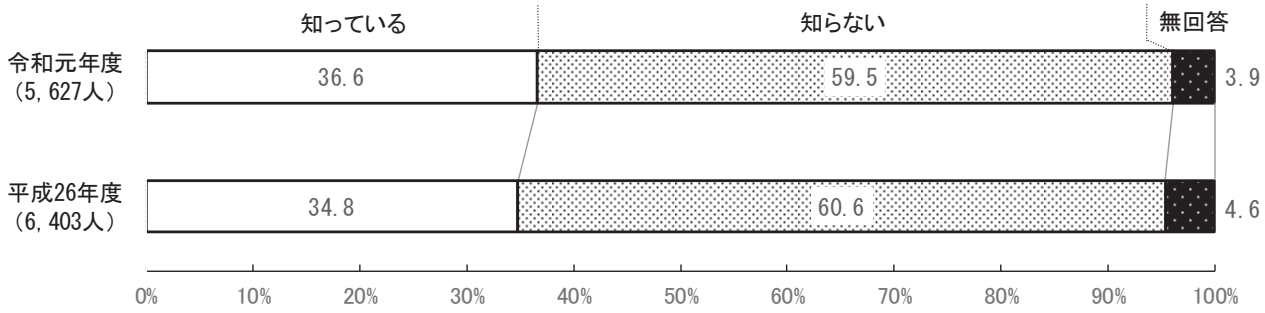
第６章　肝炎ウイルス検査の状況

１　肝炎ウイルス検査の認知度

区市町村や保健所で、Ｂ型肝炎ウイルス、Ｃ型肝炎ウイルスへの感染の有無を調べる肝炎ウイルス検査が行われていることを知っているか聞いたところ、「知っている」割合が 36.6%、「知らない」が 59.5%となっている。（図Ⅱ-6-1）

図Ⅱ-6-1　肝炎ウイルス検査の認知度



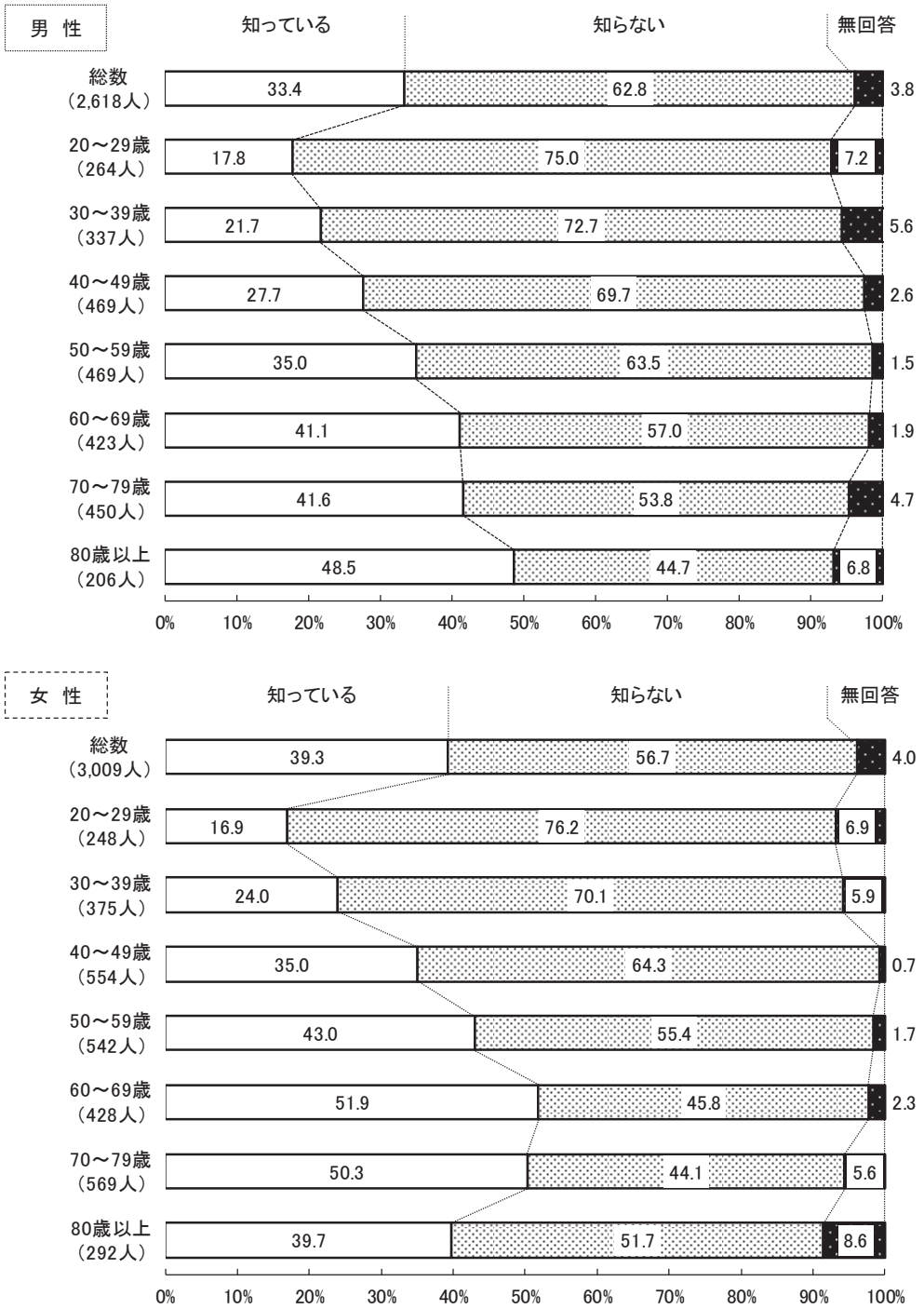
（１）肝炎ウイルス検査の認知度－性・年齢階級別

肝炎ウイルス検査が行われていることを「知っている」人の割合は、男性 33.4%、女性 39.3%

肝炎ウイルス検査の認知度を性別でみると、「知っている」割合は、男性 33.4%、女性 39.3%となっている。

性・年齢階級別にみると、60 代～70 代女性では、「知っている」割合が 5 割を超えている（51.9%、50.3%）。（図Ⅱ-6-2）

図Ⅱ-6-2　肝炎ウイルス検査の認知度－性・年齢階級別

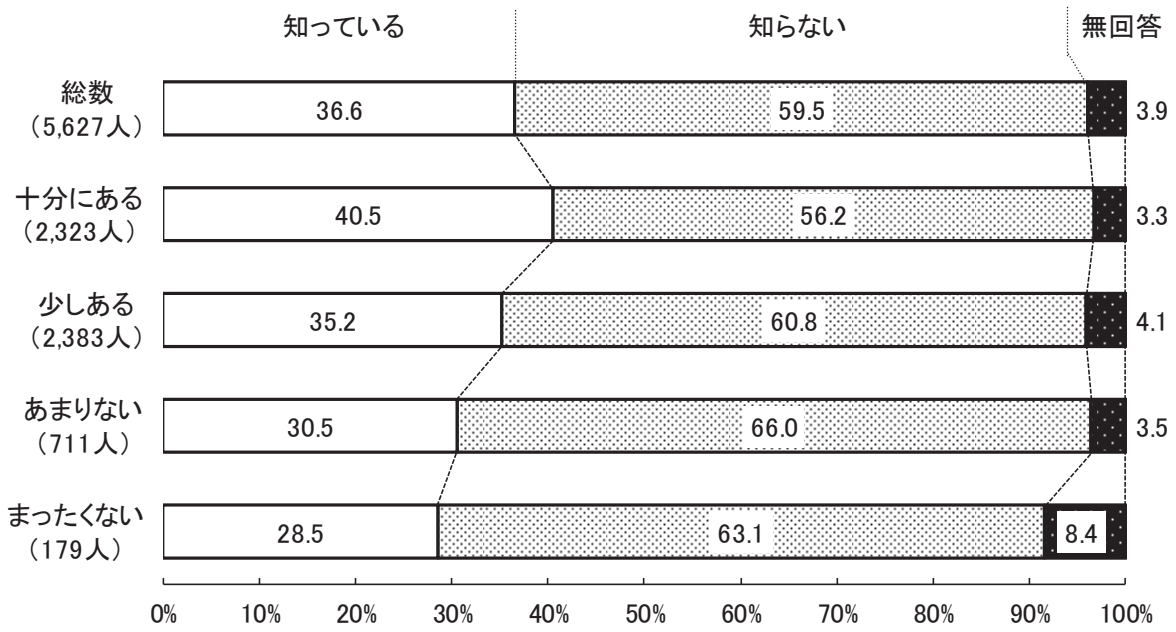


（２）肝炎ウイルス検査の認知度－食生活・生活習慣改善意欲別

肝炎ウイルス検査が行われていることを「知っている」人の割合は、食生活・生活習慣改善意欲が十分にある人では約４割

肝炎ウイルス検査の認知度を食生活・生活習慣改善意欲別にみると、肝炎ウイルス検査が行われていることを「知っている」割合は、食生活・生活習慣改善意欲が十分にある人では40.5%となっている。（図Ⅱ-6-3）

図Ⅱ-6-3　肝炎ウイルス検査の認知度－食生活・生活習慣改善意欲別

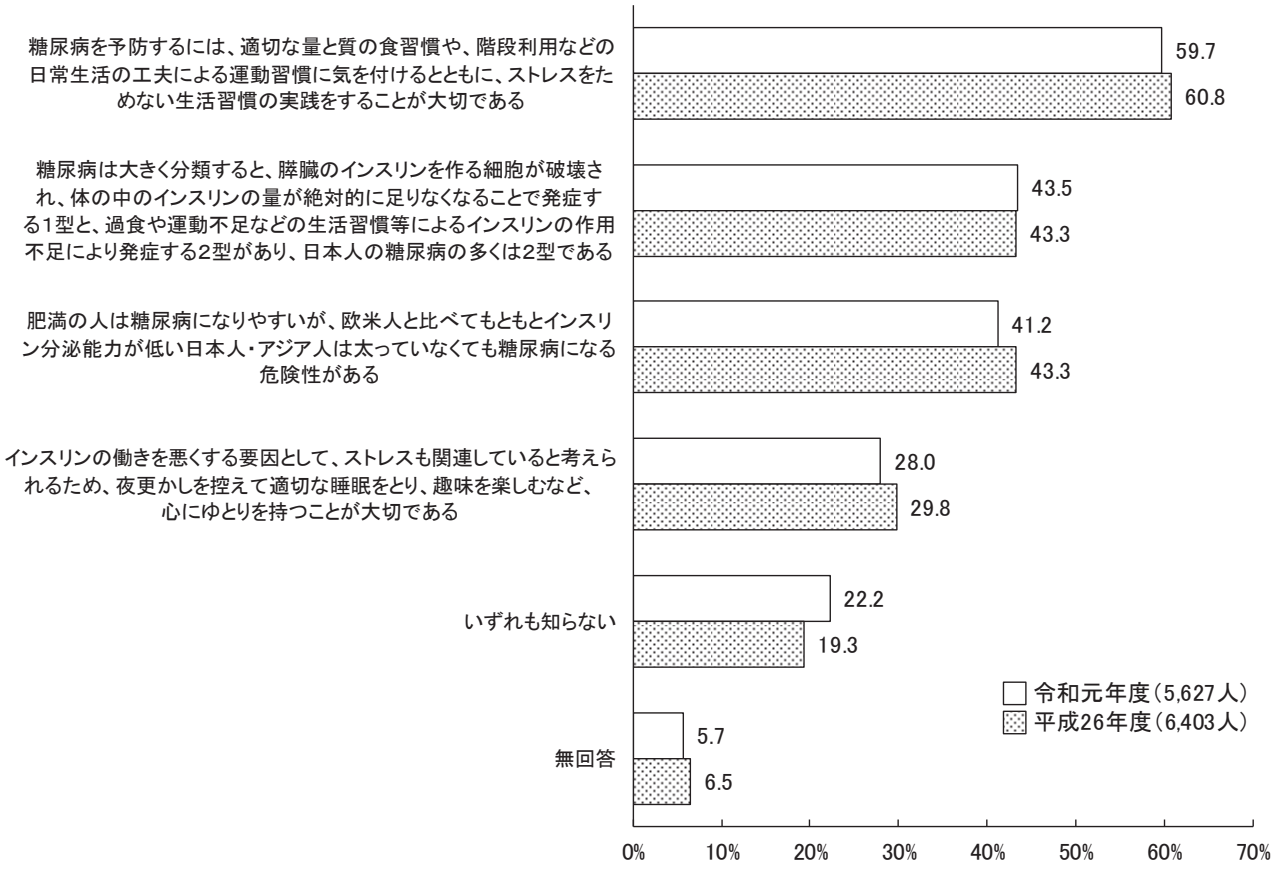


第７章　糖尿病

１　生活習慣改善による発症予防について知っていること［複数回答］

生活習慣の改善による発症予防について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」と回答した割合が 59.7％と最も高くなっている。（図Ⅱ-7-1）

図Ⅱ-7-1　生活習慣改善による発症予防について知っていること［複数回答］



（1）生活習慣改善による発症予防について知っていること［複数回答］－性・年齢階級別

男女とも「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」ことを知っている割合が最も高い

生活習慣改善による発症予防について知っていることを性・年齢階級別にみると、男女とも「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」と回答した割合が最も高くなっている（男性 57.3%、女性 61.9%）。

一方で、「いずれも知らない」の割合は、20 代～40 代男性、20 代及び 80 歳以上の女性で 3 割を超えている（31.1%～33.5%）。（表Ⅱ-7-1）

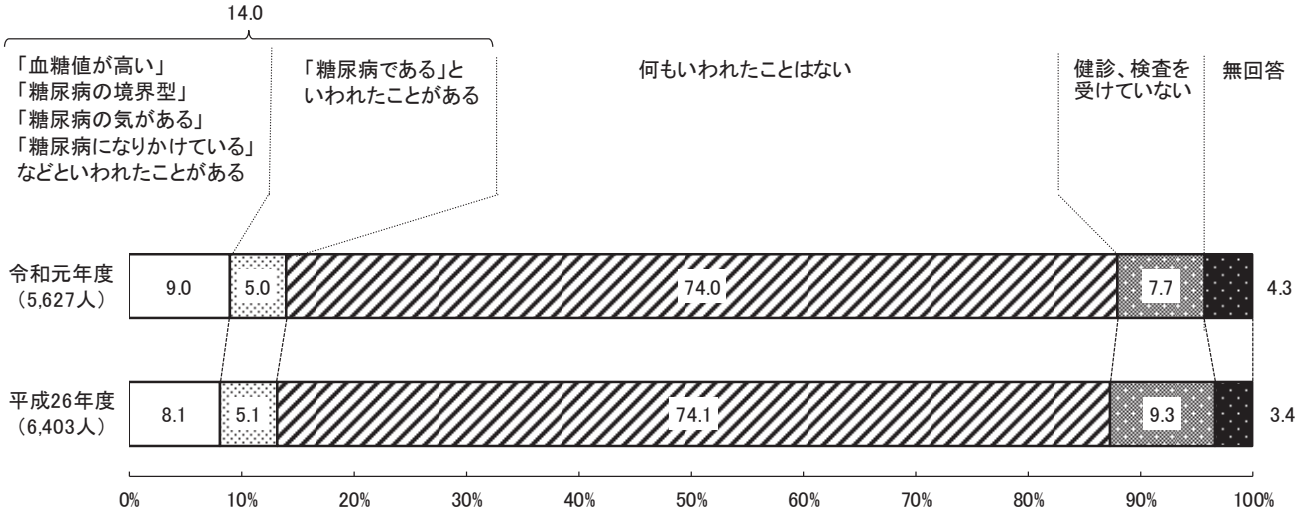
表Ⅱ-7-1　生活習慣改善による発症予防について知っていること［複数回答］－性・年齢階級別

	総数	糖尿病は大きく分類すると、膵臓の細胞が破壊され、体の中のインスリンの量が絶対的に足りなくなることで発症する1型と、過食や運動不足などの生活習慣等によるインスリンの作用不足により発症する2型があり、日本人の糖尿病の多くは2型である	肥満の人は糖尿病になりやすいが、欧米人と比べてもともとインスリン分泌能力が低い日本人・アジア人は太っていなくても糖尿病になる危険性がある	糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である	インスリンの働きを悪くする要因として、ストレス関連ていると考えられるため、夜更かしを控えて適切な睡眠をとり、趣味を楽しむなど、心にゆとりを持つことが大切である	いずれも知らない	無回答
総数	100.0 (5,627)	43.5	41.2	59.7	28.0	22.2	5.7
男	100.0 (2,618)	38.4	38.8	57.3	27.2	25.0	5.9
20～29歳	100.0 (264)	23.5	29.9	43.9	17.4	32.2	9.8
30～39歳	100.0 (337)	30.6	33.8	48.1	22.3	31.2	7.4
40～49歳	100.0 (469)	33.7	34.8	53.7	24.5	31.1	3.4
50～59歳	100.0 (469)	42.4	43.7	64.2	30.7	20.7	3.2
60～69歳	100.0 (423)	48.5	45.9	68.8	32.4	18.4	3.5
70～79歳	100.0 (450)	41.1	40.4	58.4	31.3	20.9	9.3
80歳以上	100.0 (206)	45.1	38.8	55.8	25.7	23.8	7.8
女	100.0 (3,009)	47.9	43.3	61.9	28.7	19.8	5.5
20～29歳	100.0 (248)	31.5	28.2	41.1	12.5	33.5	10.1
30～39歳	100.0 (375)	43.5	37.6	59.5	21.1	24.0	5.6
40～49歳	100.0 (554)	46.9	44.0	62.1	26.4	21.1	2.7
50～59歳	100.0 (542)	57.0	50.7	72.9	32.7	13.1	2.8
60～69歳	100.0 (428)	57.7	50.0	69.6	33.9	13.3	3.0
70～79歳	100.0 (569)	51.3	46.7	64.5	36.9	14.8	8.3
80歳以上	100.0 (292)	31.5	31.5	45.2	26.0	32.2	9.6

2　糖尿病り患状況

健診等の結果、糖尿病といわれたことがあるか聞いたところ、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」割合が 9.0%、「『糖尿病である』といわれたことがある」が 5.0%となっており、これらを合わせた割合は 14.0%となっている。一方で、「何もいわれたことはない」の割合は 74.0%となっている。（図Ⅱ-7-2）

図Ⅱ-7-2　糖尿病り患状況

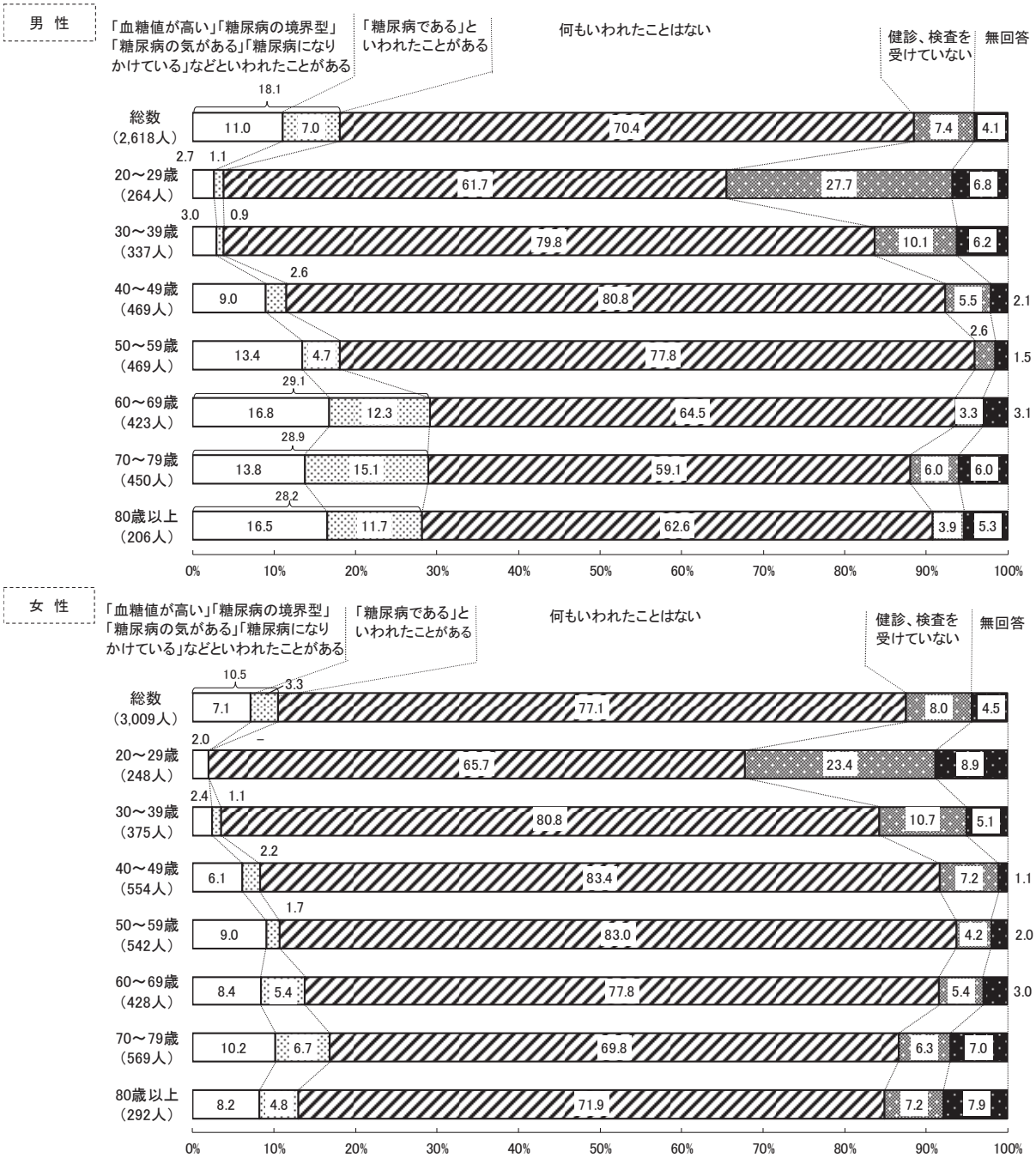


（１）糖尿病り患状況－性・年齢階級別

「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」と「『糖尿病である』といわれたことがある」を合わせた割合は、男性 18.1%、女性 10.5%

糖尿病り患状況を性・年齢階級別にみると、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」と「『糖尿病である』といわれたことがある」を合わせた割合は、男性 18.1%、女性 10.5%となっている。60 代以上の男性では、これらを合わせた割合が約 3 割となっている（28.2%～29.1%）。（図Ⅱ-7-3）

図Ⅱ-7-3　糖尿病り患状況－性・年齢階級別



（注）　回答別比率を合算した比率(18.1%、10.5%)は、回答別人数を合算して求めているため、比率の内訳の合計とは一致しない。

3　糖尿病の治療の有無と治療内容［複数回答］

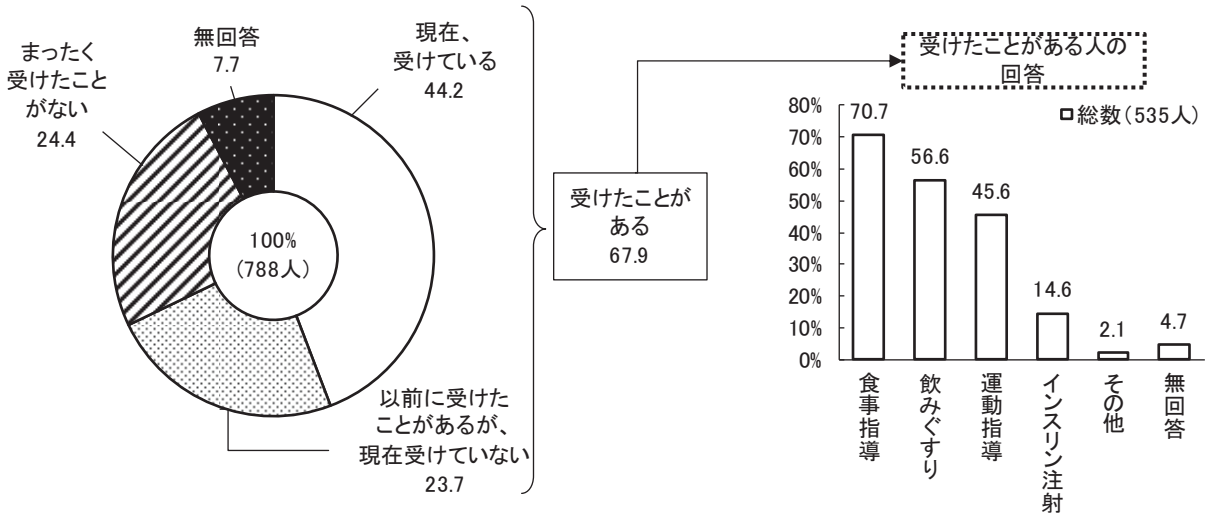
「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」又は「『糖尿病である』といわれたことがある」と回答した人（788 人）に、治療を受けたことがあるか聞いたところ、「現在、受けている」割合が 44.2%、「以前に受けたことがあるが、現在受けていない」が 23.7%となっている。一方で、「まったく受けたことがない」割合は 24.4%となっている。（図Ⅱ-7-4）

また、「現在、受けている」又は「以前に受けたことがあるが、現在受けていない」と回答した人（535 人）に治療の内容を聞いたところ、「食事指導」の割合が 70.7%、「飲みぐすり」が 56.6%、「運動指導」が 45.6%となっている。（図Ⅱ-7-5）

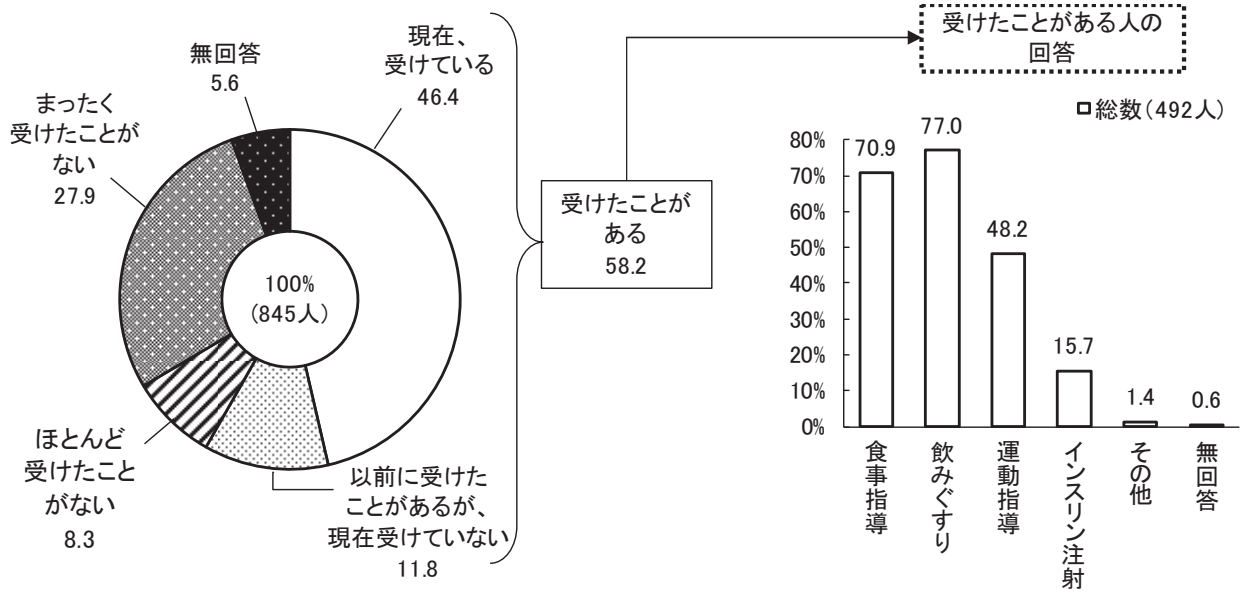
図Ⅱ-7-4　糖尿病の治療の有無

図Ⅱ-7-5　糖尿病の治療内容［複数回答］

令和元年度



〔参考〕平成 26 年度



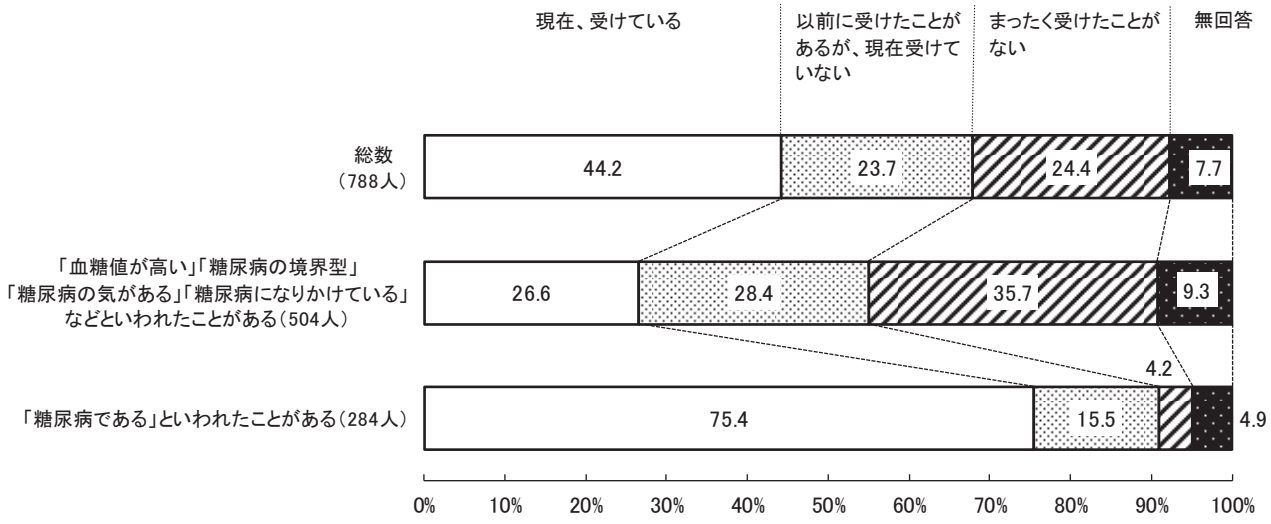
（１）糖尿病の治療の有無－糖尿病り患状況別

「『糖尿病である』といわれたことがある」人では、糖尿病の治療を「現在、受けている」割合が７割を超えている

糖尿病の治療の有無を糖尿病り患状況別にみると、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」人では、「まったく受けたことがない」割合が 35.7％となっている。

「『糖尿病である』といわれたことがある」人では、「現在、受けている」割合が 75.4％となっている。（図Ⅱ-7-6）

図Ⅱ-7-6　糖尿病の治療の有無－糖尿病り患状況別



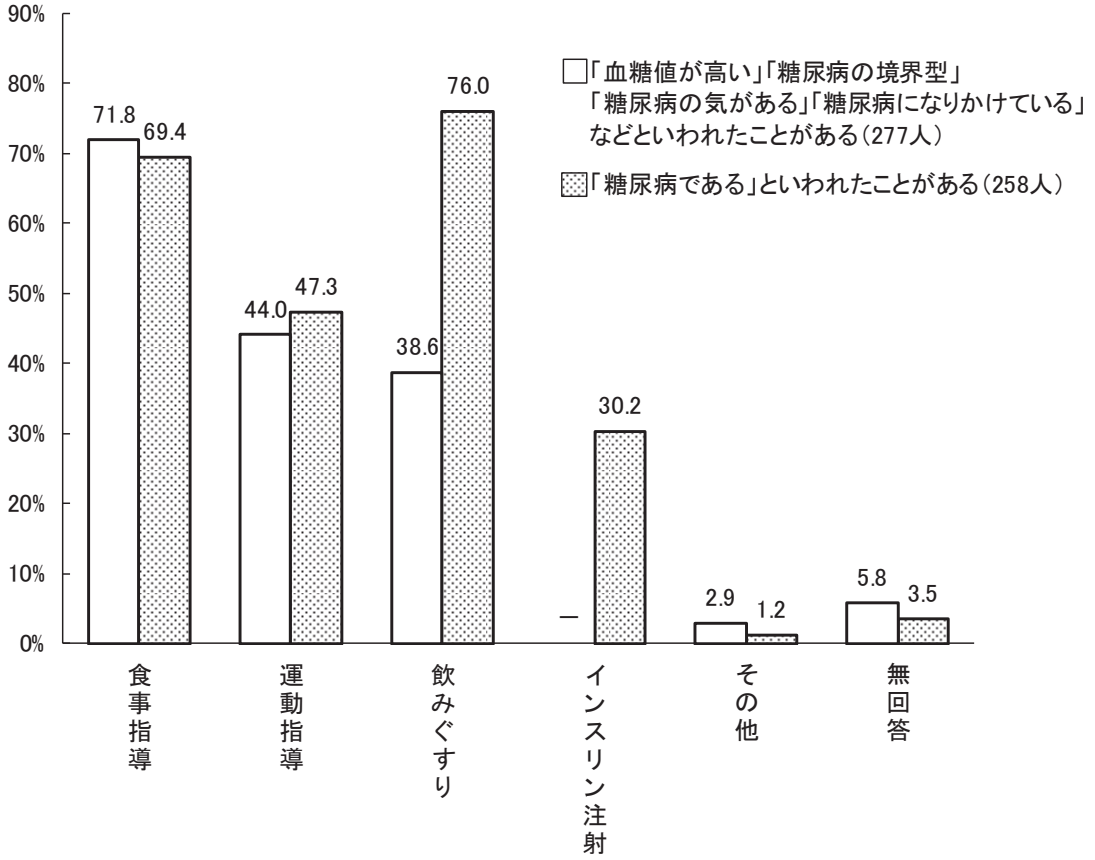
（２）糖尿病の治療内容［複数回答］－糖尿病り患状況別

「『糖尿病である』といわれたことがある」人の治療内容は、「飲みぐすり」の割合が 76.0%

糖尿病の治療内容を糖尿病り患状況別にみると、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」人では、「食事指導」の割合が 71.8%となっている。

「『糖尿病である』といわれたことがある」人では、「飲みぐすり」の割合が 76.0%、「食事指導」が 69.4%となっている。（図Ⅱ-7-7）

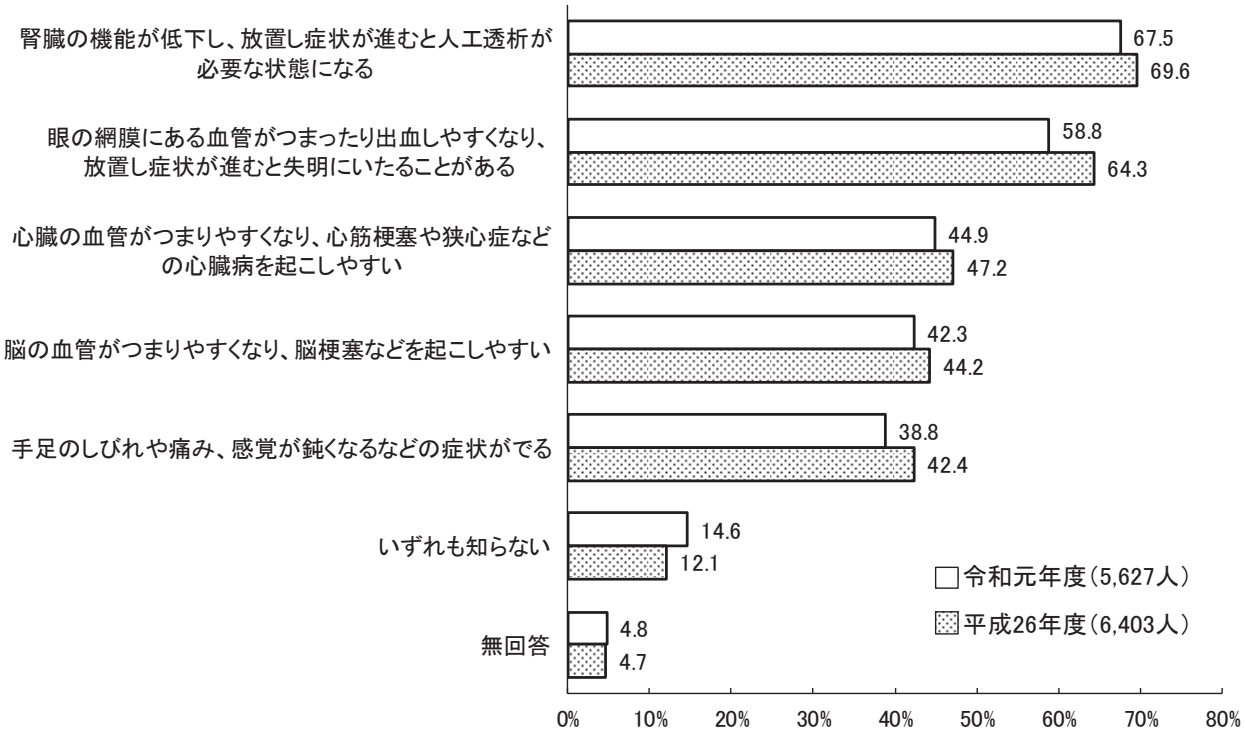
図Ⅱ-7-7　糖尿病の治療内容［複数回答］－糖尿病り患状況別



4　糖尿病の悪化で起こる状態の認知度［複数回答］

糖尿病が悪化することで、以下のような状態になることを知っているか聞いたところ、「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」と回答した割合が 67.5％で最も高く、次いで「眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、放置し症状が進むと失明にいたることがある」が 58.8％となっている。（図Ⅱ-7-8）

図Ⅱ-7-8　糖尿病の悪化で起こる状態の認知度［複数回答］



（1）糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]－性・年齢階級別

男女とも「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」ことを知っている割合が最も高い

糖尿病の悪化で起こる状態の認知度を性別でみると、男女とも「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」ことを知っている割合が最も高くなっている（男性 65.9%、女性 68.9%）。（表Ⅱ-7-2）

表Ⅱ-7-2　糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]－性・年齢階級別

		総数	腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる	手足のしびれや痛み、感覚が鈍くなるなどの症状がでる	眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、放置し症状が進むと失明にいたることがある	心臓の血管がつまりやすくなり、心筋梗塞や狭心症などの心臓病を起こしやすい	脳の血管がつまりやすくなり、脳梗塞などを起こしやすい	いずれも知らない	無回答
総数		100.0 (5,627)	67.5	38.8	58.8	44.9	42.3	14.6	4.8
男		100.0 (2,618)	65.9	37.7	54.6	45.1	42.7	17.0	4.3
	20～29歳	100.0 (264)	53.4	32.6	29.9	35.6	38.3	23.1	8.3
	30～39歳	100.0 (337)	63.5	40.7	45.1	42.7	38.0	20.5	5.9
	40～49歳	100.0 (469)	65.7	39.0	53.3	38.8	37.1	19.6	2.6
	50～59歳	100.0 (469)	73.8	39.9	64.0	47.1	45.4	12.8	1.9
	60～69歳	100.0 (423)	72.6	42.6	67.1	56.5	51.5	10.4	3.5
	70～79歳	100.0 (450)	65.3	34.2	57.1	48.9	45.3	14.9	5.3
	80歳以上	100.0 (206)	55.8	28.6	52.4	38.8	39.3	25.7	5.3
女		100.0 (3,009)	68.9	39.8	62.4	44.7	41.9	12.4	5.3
	20～29歳	100.0 (248)	48.0	25.8	25.4	31.0	33.1	27.0	9.3
	30～39歳	100.0 (375)	68.5	42.1	54.4	44.5	40.8	13.9	5.6
	40～49歳	100.0 (554)	70.4	44.9	66.8	42.6	39.5	12.3	1.6
	50～59歳	100.0 (542)	74.9	45.0	72.0	50.7	47.4	8.5	3.1
	60～69歳	100.0 (428)	78.5	46.0	77.8	53.7	52.1	4.2	3.7
	70～79歳	100.0 (569)	69.9	37.8	66.1	47.8	43.4	9.5	8.3
	80歳以上	100.0 (292)	56.5	23.6	47.9	29.5	27.4	23.3	8.6

（２）糖尿病の悪化で起こる状態の認知度［複数回答］－糖尿病り患状況別

「『糖尿病である』といわれたことがある」人では、いずれの項目も、知っている割合が６割を超えている

糖尿病の悪化で起こる状態の認知度を糖尿病り患状況別にみると、「『糖尿病である』といわれたことがある」人では、「いずれも知らない」を除く全ての項目について、知っている割合が６割を超えている（68.0％～82.7％）。（表Ⅱ-7-3）

表Ⅱ-7-3　糖尿病の悪化で起こる状態の認知度［複数回答］－糖尿病り患状況別

	総数	腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる	手足のしびれや痛み、感覚が鈍くなるなどの症状がでる	眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、放置し症状が進むと失明にいたることがある	心臓の血管がつまりやすくなり、心筋梗塞や狭心症などの心臓病を起こしやすい	脳の血管がつまりやすくなり、脳梗塞などを起こしやすい	いずれも知らない	無回答
総数	100.0 (5,627)	67.5	38.8	58.8	44.9	42.3	14.6	4.8
「血糖値が高い」「糖尿病の境界型」「糖尿病の気がある」「糖尿病になりかけている」などといわれたことがある	100.0 (504)	74.8	51.2	71.6	58.9	54.0	8.1	1.4
「糖尿病である」といわれたことがある	100.0 (284)	82.7	68.0	81.7	78.2	73.6	4.6	1.8
何もいわれたことはない	100.0 (4,163)	70.2	38.2	60.4	44.1	41.8	14.7	1.9
健診、検査を受けていない	100.0 (435)	52.9	28.7	36.1	31.7	32.0	32.0	3.0

第８章　結核

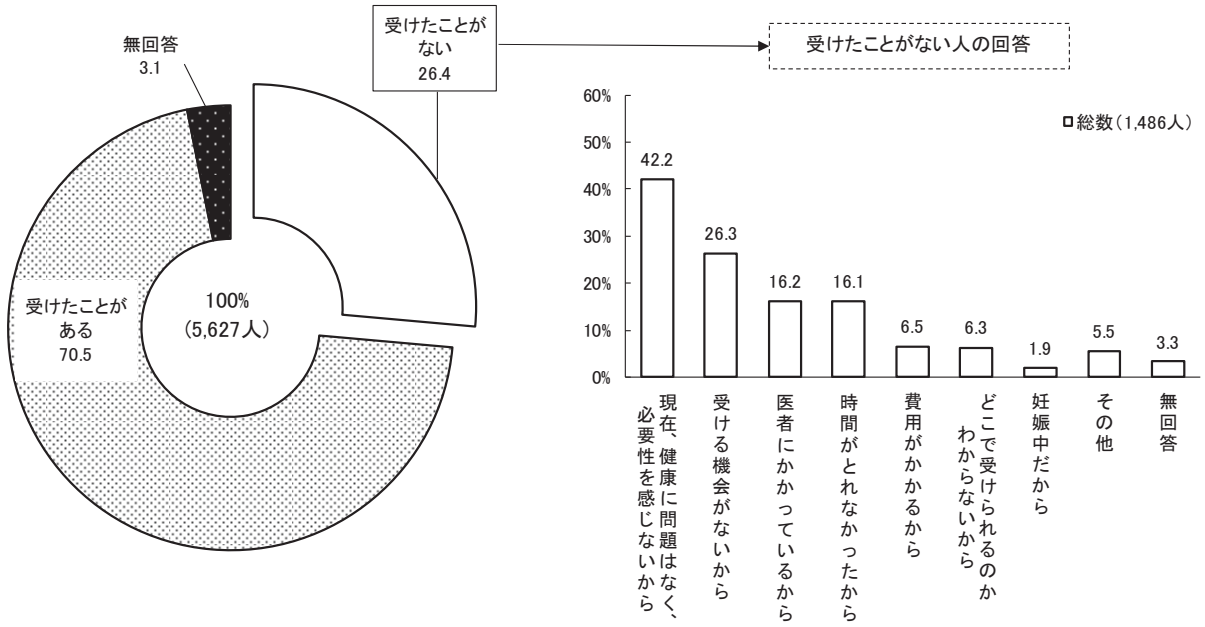
１　胸のレントゲン検査の受診の有無と受診しなかった理由［複数回答］

この１年以内に胸のレントゲン検査を受けたことがあるか聞いたところ、「受けたことがある」の割合が 70.5%、「受けたことがない」が 26.4%となっている。（図Ⅱ-8-1）

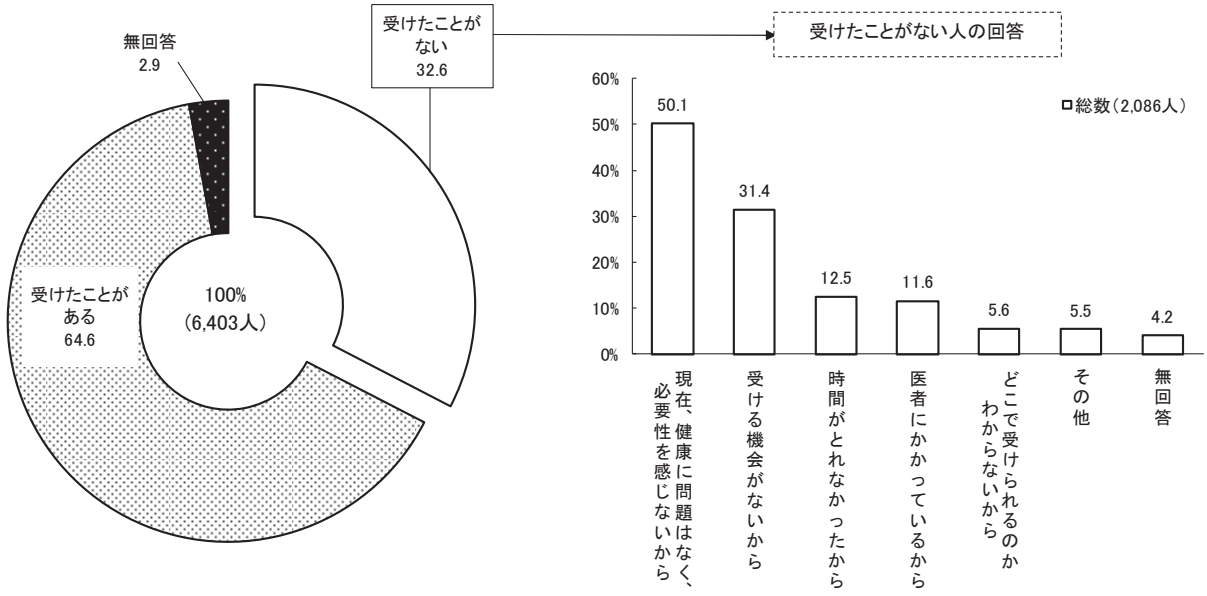
「受けたことがない」人（1,486 人）に受診しなかった理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が 42.2%、「受ける機会がないから」が 26.3%となっている。（図Ⅱ-8-2）

図Ⅱ-8-1　胸のレントゲン検査の受診の有無　　図Ⅱ-8-2　胸のレントゲン検査を受診しなかった理由［複数回答］

令和元年度



〔参考〕平成 26 年度



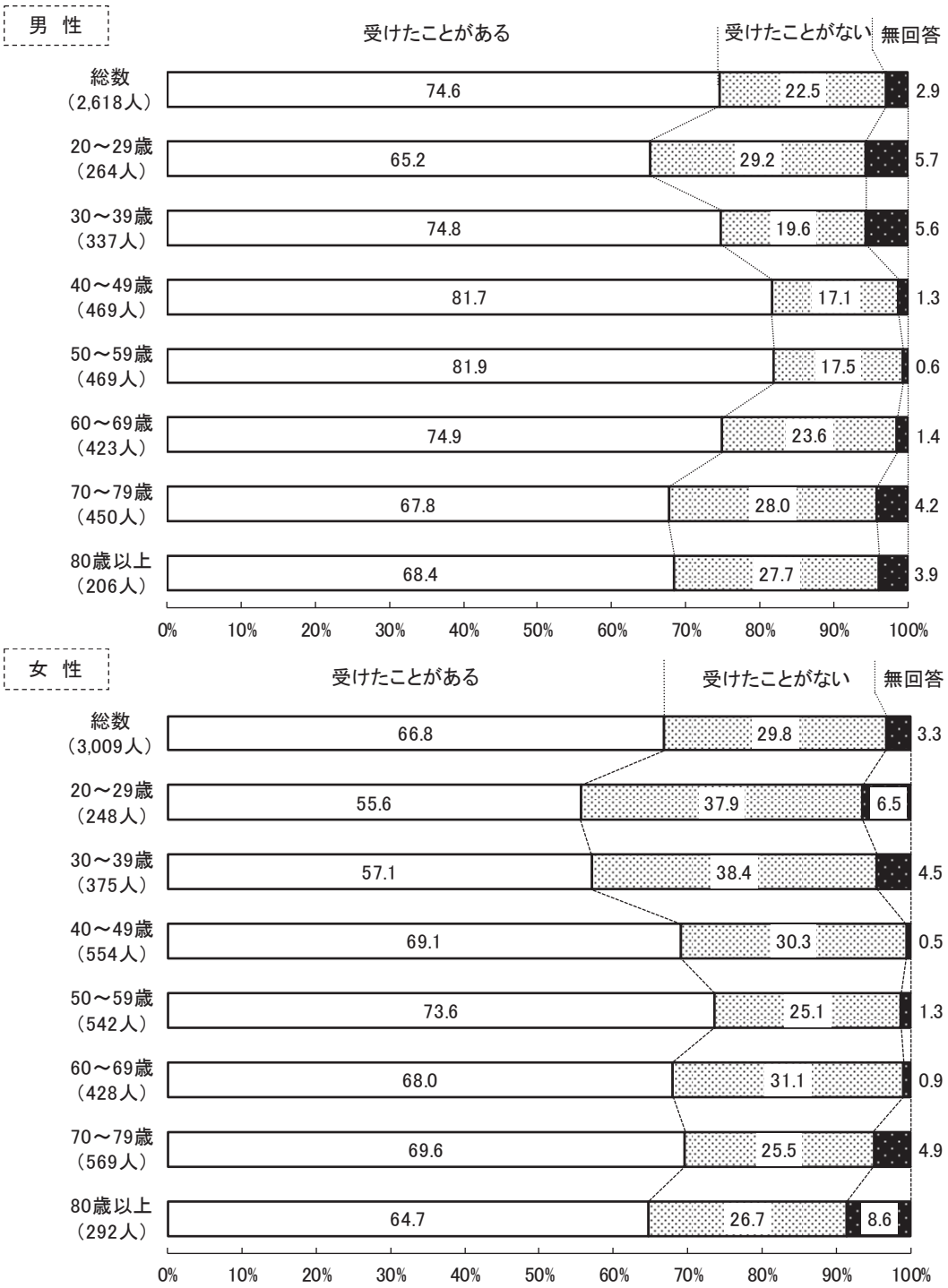
（１）胸のレントゲン検査の受診の有無－性・年齢階級別

胸のレントゲン検査を受診したことがある割合は、男性 74.6%、女性 66.8%

胸のレントゲン検査の受診の有無を性・年齢階級別にみると、「受けたことがある」割合は、男性 74.6%、女性 66.8%となっている。

一方で、「受けたことがない」の割合は、20 代女性で 37.9%、30 代女性で 38.4%となっている。（図Ⅱ-8-3）

図Ⅱ-8-3　胸のレントゲン検査の受診の有無－性・年齢階級別



（２）胸のレントゲン検査の受診の有無－就業状況別

主に仕事をしている人では、胸のレントゲン検査を受診したことがある割合が約８割

胸のレントゲン検査の受診の有無を就業状況別にみると、「受けたことがある」割合は、主に仕事をしている人で 79.1％となっている。（表Ⅱ-8-1）

表Ⅱ-8-1　胸のレントゲン検査の受診の有無－就業状況別

	総数	受けたことがある	受けたことがない	無回答
総数	100.0 (5,627)	70.5	26.4	3.1
労働力人口	100.0 (3,676)	75.9	21.5	2.6
就業者	100.0 (3,636)	76.4	21.0	2.6
主に仕事	100.0 (3,000)	79.1	18.4	2.5
家事などのかたわらに仕事	100.0 (524)	66.2	31.9	1.9
通学のかたわらに仕事	100.0 (59)	44.1	45.8	10.2
その他	100.0 (53)	58.5	34.0	7.5
仕事を探していた	100.0 (40)	35.0	65.0	－
非労働力人口	100.0 (1,863)	60.7	35.1	4.3
家事専業	100.0 (620)	57.1	39.8	3.1
通学のみ	100.0 (78)	50.0	43.6	6.4
働いていない （幼児・高齢・病気等）	100.0 (1,165)	63.3	31.9	4.8

（３）胸のレントゲン検査を受診しなかった理由［複数回答］－性・年齢階級別

胸のレントゲン検査を受診しなかった理由は、男女とも「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が４割を超えている

胸のレントゲン検査を受診しなかった理由を性・年齢階級別にみると、男女とも「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が４割を超えている（男性 44.9%、女性 40.4%）。

また、「受ける機会がないから」の割合は、20 代～30 代女性で 4 割を超えている（41.5%、47.2%）。（表Ⅱ-8-2）

表Ⅱ-8-2　胸のレントゲン検査を受診しなかった理由［複数回答］－性・年齢階級別

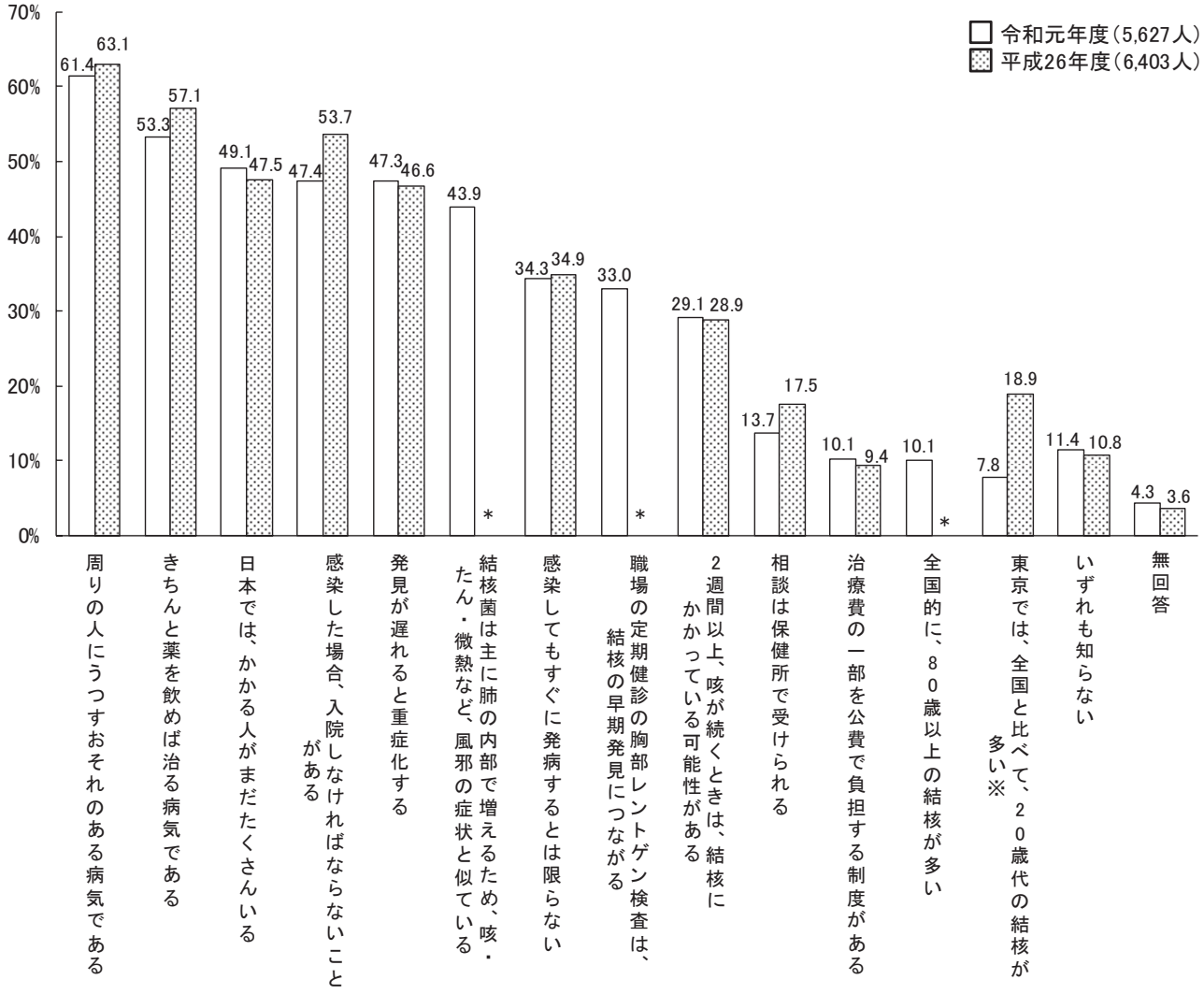
		総数	現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから	どこで受けられるのかわからないから	受ける機会がないから	時間がとれなかったから	医者にかかっているから	妊娠中だから※	費用がかかるから	その他	無回答
総数		100.0 (1,486)	42.2	6.3	26.3	16.1	16.2	1.9	6.5	5.5	3.3
男		100.0 (588)	44.9	5.6	24.0	14.1	18.5	0.2	6.0	5.8	2.7
	20～29歳	100.0 (77)	49.4	9.1	36.4	9.1	1.3	－	5.2	6.5	3.9
	30～39歳	100.0 (66)	42.4	10.6	39.4	19.7	3.0	－	19.7	3.0	3.0
	40～49歳	100.0 (80)	41.3	1.3	33.8	25.0	10.0	－	10.0	8.8	2.5
	50～59歳	100.0 (82)	32.9	13.4	29.3	26.8	14.6	－	2.4	7.3	1.2
	60～69歳	100.0 (100)	50.0	1.0	12.0	12.0	27.0	－	5.0	4.0	3.0
	70～79歳	100.0 (126)	49.2	4.0	15.9	4.8	26.2	－	2.4	5.6	3.2
	80歳以上	100.0 (57)	45.6	1.8	7.0	5.3	45.6	1.8	－	5.3	1.8
女		100.0 (898)	40.4	6.8	27.8	17.4	14.6	3.0	6.9	5.2	3.7
	20～29歳	100.0 (94)	40.4	17.0	41.5	8.5	2.1	8.5	13.8	6.4	4.3
	30～39歳	100.0 (144)	36.8	13.2	47.2	13.9	1.4	9.0	11.8	5.6	4.2
	40～49歳	100.0 (168)	35.7	5.4	29.2	28.0	6.5	3.6	5.4	6.0	3.0
	50～59歳	100.0 (136)	33.8	2.2	27.9	30.1	13.2	－	9.6	4.4	2.9
	60～69歳	100.0 (133)	42.1	2.3	19.5	15.0	23.3	－	4.5	6.0	1.5
	70～79歳	100.0 (145)	53.8	4.8	11.0	10.3	24.8	－	2.8	3.4	7.6
	80歳以上	100.0 (78)	41.0	5.1	17.9	6.4	39.7	－	－	5.1	1.3

（注）※は、男性で１名回答者がいるが、本人の回答どおりに集計した。

2　結核に関する知識の認知度［複数回答］

結核について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、「周りの人にうつすおそれのある病気である」と回答した割合が 61.4％と最も高く、次いで「きちんと薬を飲めば治る病気である」が 53.3％となっている。（図Ⅱ-8-4）

図Ⅱ-8-4　結核に関する知識の認知度［複数回答］



（注1）　※は、平成 26 年度調査では「東京では若い人の結核が多い」としていた。

（注2）　＊は、平成 26 年度調査では選択肢を設けていなかった。

（１）結核に関する知識の認知度［複数回答］－性・年齢階級別

男女とも「周りの人にうつすおそれのある病気である」ことを知っている割合が最も高い

結核に関する知識の認知度を性・年齢階級別にみると、男女とも「周りの人にうつすおそれのある病気である」ことを知っている割合が最も高くなっている（男性 56.0%、女性 66.1%）。

一方で、「いずれも知らない」の割合は、男女とも 20 代では 2 割を超えている（男性 25.4%、女性 23.0%）。（表Ⅱ-8-3）

表Ⅱ-8-3　結核に関する知識の認知度［複数回答］－性・年齢階級別

	総数	日本では、かかる人がまだたくさんいる	感染してもすぐに発病するとは限らない	きちんと薬を飲めば治る病気である	発見が遅れると重症化する	周りの人にうつすおそれのある病気である	結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳・たん・微熱など、風邪の症状と似ている	2週間以上、咳が続くときは、結核にかかっている可能性がある	東京では、全国と比べて、20歳代の結核が多い	全国的に、80歳以上の結核が多い	職場の定期健診の胸部レントゲン検査は、結核の早期発見につながる	相談は保健所で受けられる	治療費の一部を公費で負担する制度がある	感染した場合、入院しなければならないことがある	いずれも知らない	無回答
総数	100.0 (5,627)	49.1	34.3	53.3	47.3	61.4	43.9	29.1	7.8	10.1	33.0	13.7	10.1	47.4	11.4	4.3
男	100.0 (2,618)	48.5	31.4	49.4	46.3	56.0	37.9	25.1	7.0	9.1	31.7	11.8	9.7	42.4	14.2	4.4
20～29歳	100.0 (264)	31.8	15.5	36.4	31.4	39.4	19.7	18.6	3.4	2.7	10.6	3.0	3.8	28.0	25.4	8.3
30～39歳	100.0 (337)	42.4	22.0	40.4	37.4	46.6	24.9	21.1	5.9	5.9	17.5	6.2	6.8	33.2	19.0	7.4
40～49歳	100.0 (469)	45.2	26.9	46.7	45.0	54.8	30.3	23.9	7.7	9.2	21.1	8.5	8.5	36.2	18.3	3.6
50～59歳	100.0 (469)	53.1	33.5	55.7	49.9	62.0	38.0	29.9	7.7	8.1	36.5	11.3	9.2	46.5	12.8	1.5
60～69歳	100.0 (423)	55.1	40.2	57.4	55.8	58.6	47.3	28.1	8.3	12.5	45.4	13.9	12.1	52.7	9.2	1.9
70～79歳	100.0 (450)	52.0	39.8	52.7	50.7	63.8	53.3	25.6	5.8	11.3	43.1	18.7	12.4	50.9	7.8	5.3
80歳以上	100.0 (206)	56.3	36.9	49.5	45.1	59.7	46.1	24.3	9.7	13.1	42.2	21.8	14.6	40.3	9.7	5.8
女	100.0 (3,009)	49.5	36.8	56.8	48.3	66.1	49.2	32.7	8.6	10.9	34.1	15.3	10.6	51.9	8.9	4.2
20～29歳	100.0 (248)	25.8	21.0	32.7	31.0	43.5	21.8	17.7	2.0	4.0	12.1	5.2	3.6	28.6	23.0	7.3
30～39歳	100.0 (375)	45.1	26.4	48.5	43.2	63.7	34.7	29.1	6.1	11.5	18.7	8.5	7.7	45.1	11.2	6.4
40～49歳	100.0 (554)	51.1	32.1	57.4	50.9	68.2	46.2	40.8	9.0	10.1	26.7	12.6	11.6	54.5	8.8	1.8
50～59歳	100.0 (542)	58.1	44.5	68.6	55.7	75.1	58.9	43.4	13.1	11.6	42.1	18.8	12.4	59.2	6.5	1.3
60～69歳	100.0 (428)	54.9	43.0	64.7	54.2	68.9	58.4	35.3	10.3	14.0	46.7	18.0	11.4	59.6	4.7	1.9
70～79歳	100.0 (569)	53.4	43.8	62.6	49.0	69.9	59.8	29.9	8.4	12.1	45.0	19.3	11.6	55.9	4.4	5.6
80歳以上	100.0 (292)	40.8	35.3	41.8	40.4	55.8	45.2	16.4	6.2	9.6	32.2	19.2	11.6	42.8	13.7	9.2

（２）結核に関する知識の認知度[複数回答]－胸のレントゲン検査の受診の有無別

レントゲン検査を受けたことがある人では、「周りの人にうつすおそれのある病気である」ことを知っている割合が 65.6%

結核に関する知識の認知度を胸のレントゲン検査の受診の有無別にみると、レントゲン検査を受けたことがある人では、「周りの人にうつすおそれのある病気である」ことを知っている割合が 65.6%となっている。（表Ⅱ-8-4）

表Ⅱ-8-4　結核に関する知識の認知度[複数回答]－胸のレントゲン検査の受診の有無別

	総数	日本では、かかる人がまだたくさんいる	感染してもすぐに発病するとは限らない	きちんと薬を飲めば治る病気である	発見が遅れると重症化する	周りの人にうつすおそれのある病気である	結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳・たん・微熱など、風邪の症状と似ている	2週間以上、咳が続くときは、結核にかかっている可能性がある	東京では、全国と比べて、20歳代の結核が多い	全国的に、80歳以上の結核が多い	職場の定期健診の胸部レントゲン検査は、結核の早期発見につながる	相談は保健所で受けられる	治療費の一部を公費で負担する制度がある	感染した場合、入院しなければならないことがある	いずれも知らない	無回答
総数	100.0 (5,627)	49.1	34.3	53.3	47.3	61.4	43.9	29.1	7.8	10.1	33.0	13.7	10.1	47.4	11.4	4.3
受けたことがある	100.0 (3,965)	52.9	36.6	57.7	51.6	65.6	47.7	31.4	8.8	11.1	38.7	15.2	11.1	50.7	10.1	1.2
受けたことがない	100.0 (1,486)	44.0	31.6	47.8	41.0	56.7	38.4	26.2	6.3	8.3	21.0	10.9	8.6	43.5	15.9	2.4